

Southern Illinois University Carbondale 南イリノイ大学

所在地
Faner 3242, Mailcode 4518, Carbondale, IL 62901
ホームページ: <http://cesl.siu.edu/>

主な対象学部
外国語学部・語学留学(英)

沿革

1869年に設立された南イリノイ教育大学を起源とする総合大学。カーボンデル校とエドワーズビル校からなる。英語集中コース(CESL)のあるカーボンデル校は、4.6平方キロメートルの広大なキャンパスに、200以上の学部、学科を擁し、それらの学部のためにキャンパス内に牧場や空港がある。CESLはUCIEP(全米大学集中英語講座連盟)とAAIEP(集中英語プログラム米国協会)の加盟校であり、1966年以来、幅広い訓練と経験を積んだ講師陣による、最先端のメソッドに基づく英語集中講座を開講している。22ヶ国から来る約300名の留学生の内、多くはサウジアラビア、ブラジル、中国からの留学生で、日本人の割合は約3%と少ない。

特色

- CESLでは年間8週間プログラムを5セッション、5月に3週間プログラムを1セッション提供しており、初級から上級の6つのレベルの他、大学院進学のためのプログラムもある。現地到着後、TOEFL ITPによるクラス分けテストを受ける。また上級クラスの学生は学部授業の聴講ができる。
- 1クラス12~15名の少人数制で、学生のニーズに応じ、2~5時間のスキルやカルチャーに特化した追加授業も受けられる。
- Skills Centerでは予約をするとチューターから30分の個別指導が受けられる。
- Conversation Partner制度がある。

宿泊

大学内外の寮を選択できる。

生活

カーボンデルは小さな親しみやすい街で、イリノイ州内のベストスモールタウンにも選ばれている。付近にはシャウニー国立公園や多くの湖がある。キャンパスは森と広場、湖と木立に囲まれ、多くの学生がアウトドアのハイキングや釣り、ボート、キャンプや野球などのスポーツを楽しんでいる。多国籍の仲間でチームを作り、サッカー、バレーボール、バスケット等の学内大会が多く開催され、スポーツを通じた文化交流が非常に盛んに行われている。また地域の貿易、観光、教育の中心地として栄え、物価が安い。セントルイスやシカゴ、インディアナポリス、ナッシュビルなどの大都市へのアクセスも良好。CESLは学内のMorris LibraryやStudent Centerに近い、Faner Hall内にある。

条件

TOEFL(ITP)450(iBT46)点・TOEIC450点以上が望ましい。

留学時期

2年次第2学期または3年次第1学期、第2学期から半年あるいは1年間。



一生ものの4ヶ月間

外国語学部英語コミュニケーション専攻 2016年留学 榎山 沙彩

私はイリノイ州のカーボンデルという小さな町にある南イリノイ大学に約4か月間留学しました。私が留学をしようと決めた一番の理由は、英語は好きだけでも英語を話すことがとにかく苦手で自信を無くし、英語を話すことを苦痛に感じている自分を変えたいという想いがありました。なので、渡米前はこれからのアメリカでの生活はすべて英語なのだと思っただけで、不安な気持ちでいっぱいでしたが憧れのアメリカでの生活を目前に、どんな生活が始まるのだろう、どんな人々に出会えるのだろうと楽しみで仕方なかったことを覚えています。カーボンデルでの私の留学生活は、想像以上に言語の壁に苦しんだり、思うように自分の意思を伝えられないもどかしさ、自分自身への葛藤など大変なことも

たくさんありましたが、何よりも印象的なことはたくさんの人々に支えられながらの充実した日々でした。留学説明会などでカーボンデルは田舎だとは聞いていましたが、本当に南イリノイ大学は学生の町といった感じで毎日リスを見ながら通学するような自然豊かな場所でした。その分人と人との繋がりが強く、仲良くなるとまるで家族のような安心感を得られる、そんな人たちに出会うことができました。

学校でのクラスは学生10人前後の少人数制で授業中は発言しやすい環境でした。クラスメイト達の国籍はもちろん様々で私は2タームを通じて中国・サウジアラビア人と一緒にクラスになることが多かったのですが、特にサウジアラビアからの留学生たちは授業中に積極的に質問や発言をしていて、私も負けじと毎日一番前の席に座り発言を心掛けるようにしていました。最初はほかの国からの留学生の訛っている英語を聞き取ることが出来ず、お互い会話に苦労していましたが、しばらくすると耳が慣れ

てきて会話も弾むようになり休み時間のクラスメイトとの会話が学校にいく楽しみの一つでもありました。私が受けていたクラスではプレゼンテーションをペアでやるのが多く、パートナーと一緒に準備をするのにも、お互いの主張したい部分の食い違いで何度も話し合いながらパワーポイントを作ったりと、日本人同士だったら絶対に妥協するだろうと思う部分でさえ自分の意見を言うようになった自分に驚いたことをよく覚えています。アメリカでの学びは日に日に自分の成長が目に見えて楽しかったです。

生活面についてですが、南イリノイ大学に留学した麗澤生は皆同じ寮にお世話になりますが、私にとっては初めての一人暮らしが海外という事で初めは不安を抱えていました。しかし、寮で生活し始めてと今まで出会ったことのないような様々な国籍の人々に出会い、また頻りにみんなで一緒に料理を作ってパーティーを開き、さらに様々な国籍の友人が

集まり楽しい時間をたくさん共有しました。寮での生活は想像をはるかに超えて充実した毎日を送ることができ、留学生活の楽しい思い出の多くも寮での出来事が印象的です。

アメリカへ留学をして様々な国の人々・文化に触れ、他国を尊敬する心が養われ、より興味を持つようになり、そして今まで考えもしなかった日本人であるという事の喜びや誇り、それから自分の中での物事に対する価値観や考え方に変化が生まれたと感じています。一緒に留学生活をした仲間、心配をかけながらも応援してくれていた両親、アメリカで出会い支えて下さったすべての方々には感謝しきれません。この留学を通じて得た知識や経験は、間違いなく私のこれからの人生において大きな糧になったと思います。